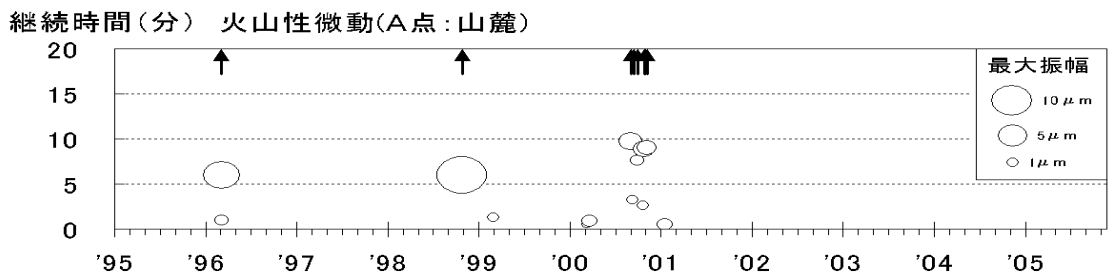
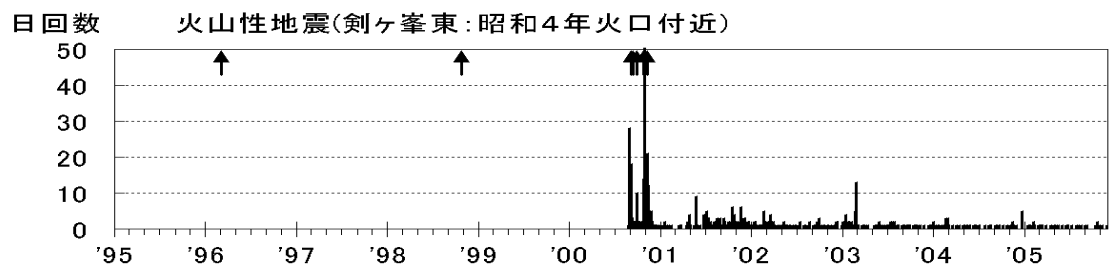
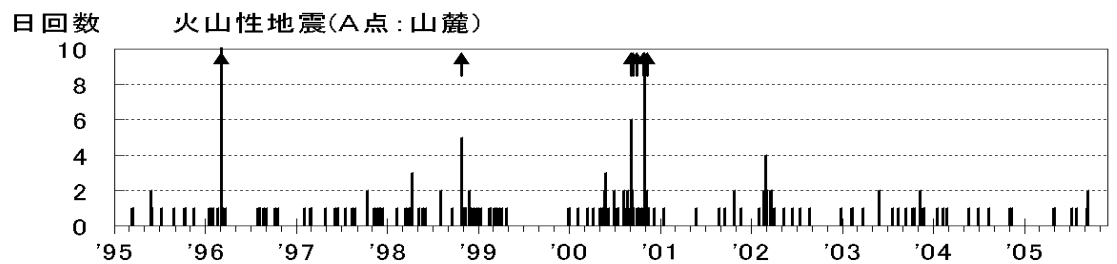
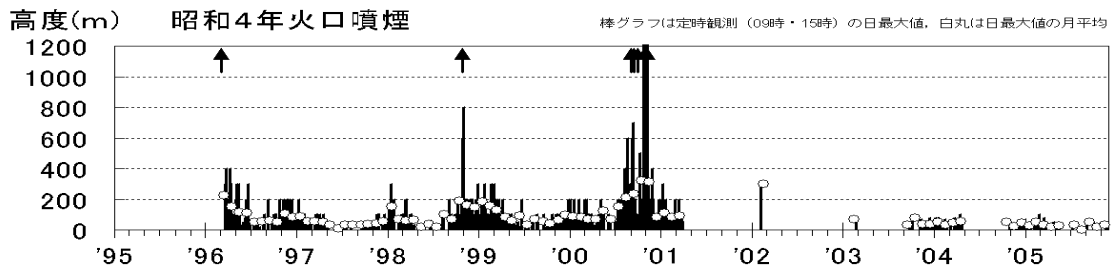
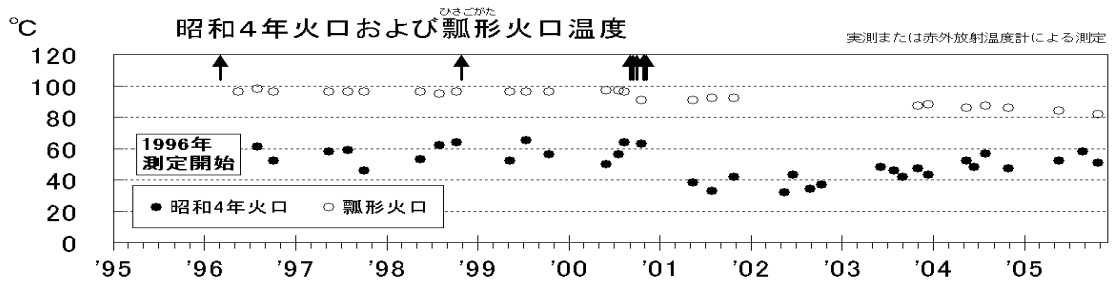


北海道駒ヶ岳

1 概況

火山活動は静穏に経過しています。わずかな山体膨張や、2003 年 9 月以降見られている弱い噴気は引き続き観測されています。



最近の火山活動経過図 (1995 年 1 月 1 日 ~ 2005 年 11 月 30 日) ↑印は噴火

2 噴煙の状況

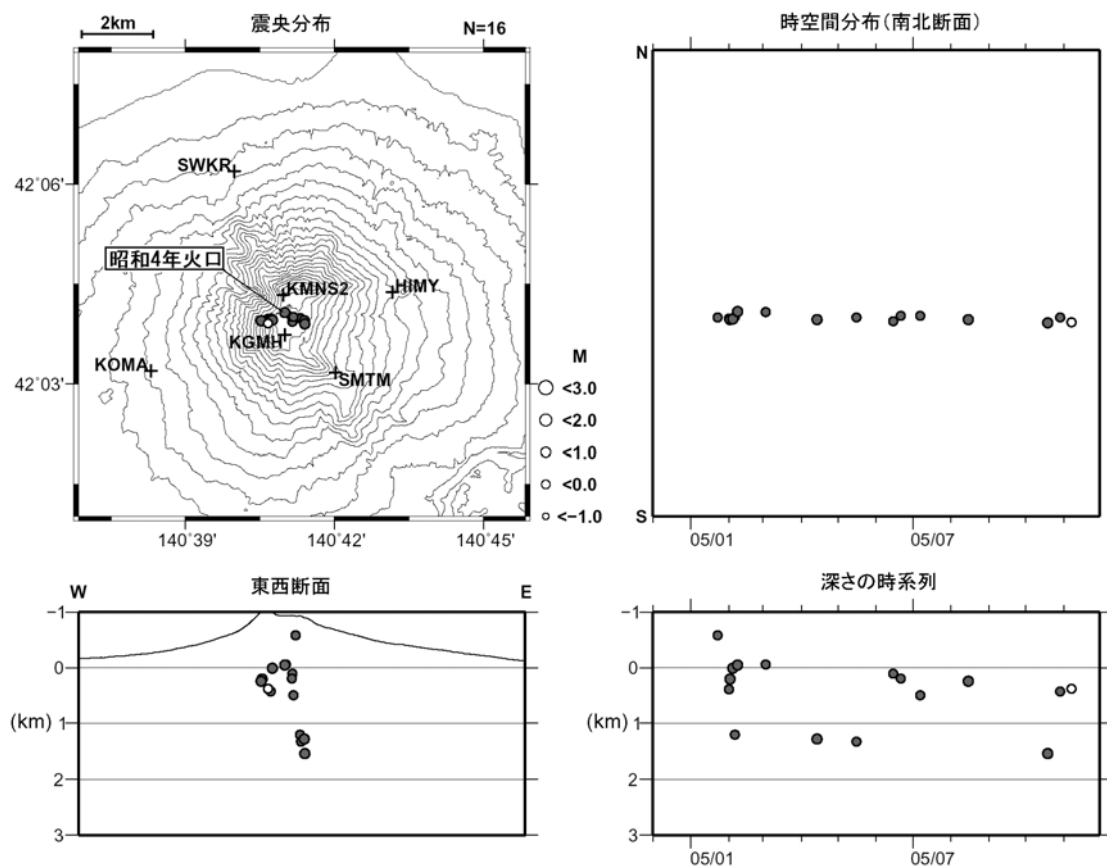
2003 年 9 月以降、昭和 4 年火口からの弱い噴気がしばしば観測されています。

3 地震の発生状況

今期間、A 点（震央分布図中 KOMA）で観測された火山性地震はありませんでした。山頂の剣ヶ峯東観測点（震央分布図中 KGMH）で観測された微小な地震も少ない状況でした。火山性微動は 2001 年 1 月以降観測されていません。

地震・微動の月回数（剣ヶ峯東：山頂付近の観測点 A 点：山麓の観測点）

2004～2005 年	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月
A 点地震回数	0	0	0	0	1	1	0	2	0	3	0	0
剣ヶ峯東地震回数	5	4	8	6	2	4	3	3	3	1	4	3
A 点微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



北海道駒ヶ岳の震源分布図（丸印：震源 +印：地震観測点）

○印は今期間（2005 年 11 月 1 日～30 日）に求まった震源を示しています。

●印は前期間までの 11 ヶ月間（2004 年 12 月 1 日～2005 年 10 月 31 日）に求まった震源を示しています。

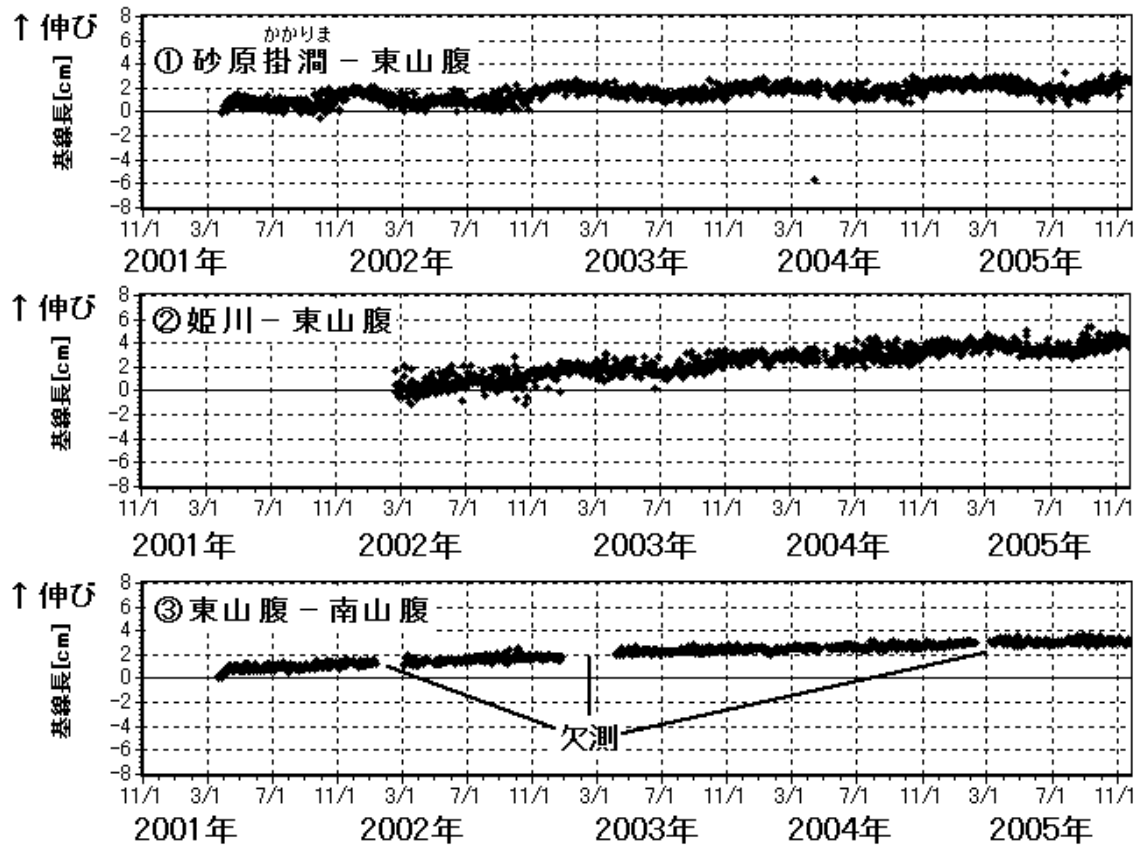
震源は大きく分けて山頂火口原直下の海面付近と海面下 1～2km に分布しています。今期間に求まった震源もこの領域内に求まっています。

震源分布図の説明

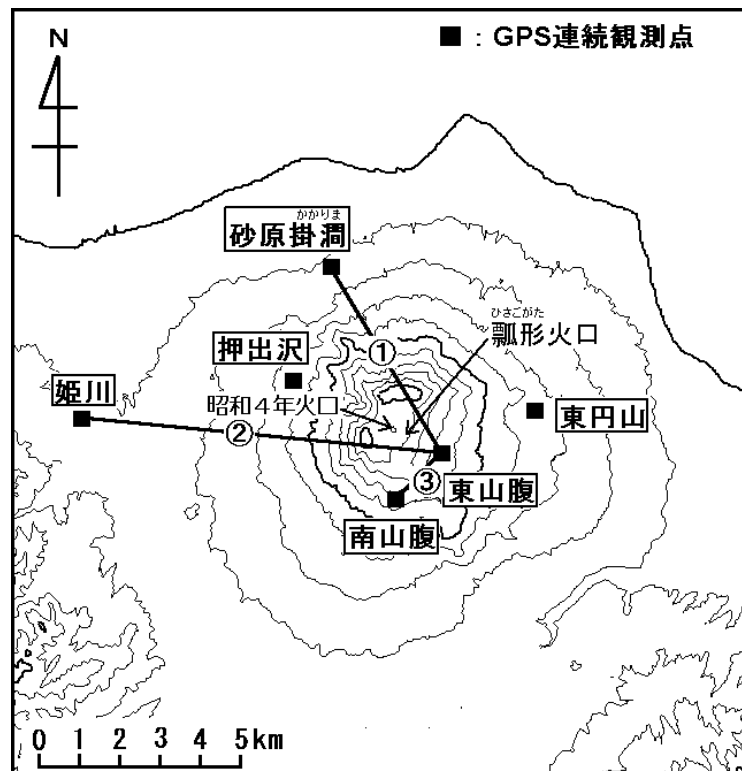
- ・東西断面：震央分布で表示された範囲を東西面に投影して、地震の垂直分布を示した図です。
- ・時空間分布：震央分布で表示された範囲を時間経過とともに南北面に投影することで、震央の位置がどのように推移しているかを示した図です。
- ・深さの時系列：時間経過とともに震源の深さがどのように推移しているかを示した図です。

4 地殻変動の状況

GPS 連続観測では、季節変動の影響も見られますが、わずかな山体膨張を示す基線長の伸びの傾向が引き続き認められています。



基線長変化 (2001 年 3 月 23 日~2005 年 11 月 30 日)

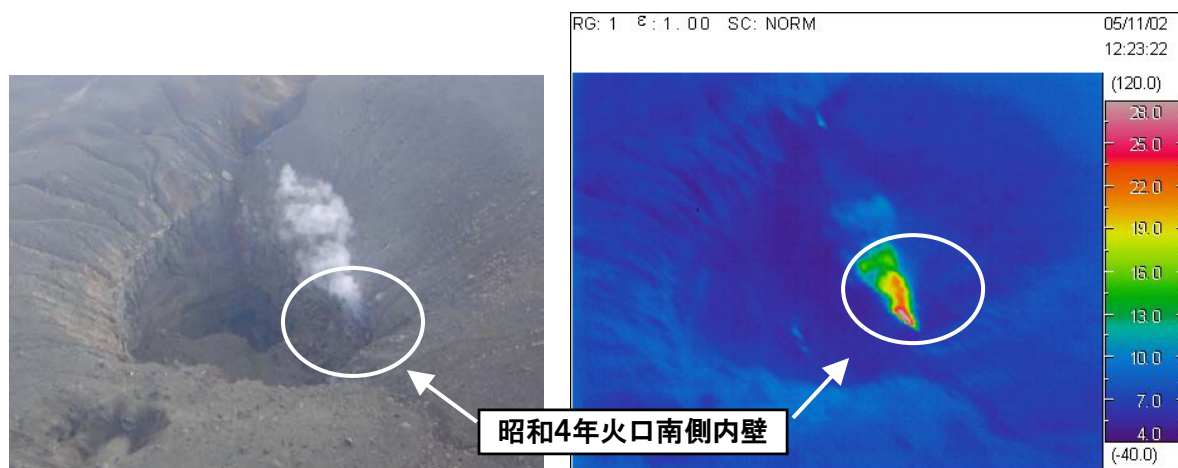


5 上空からの観測結果

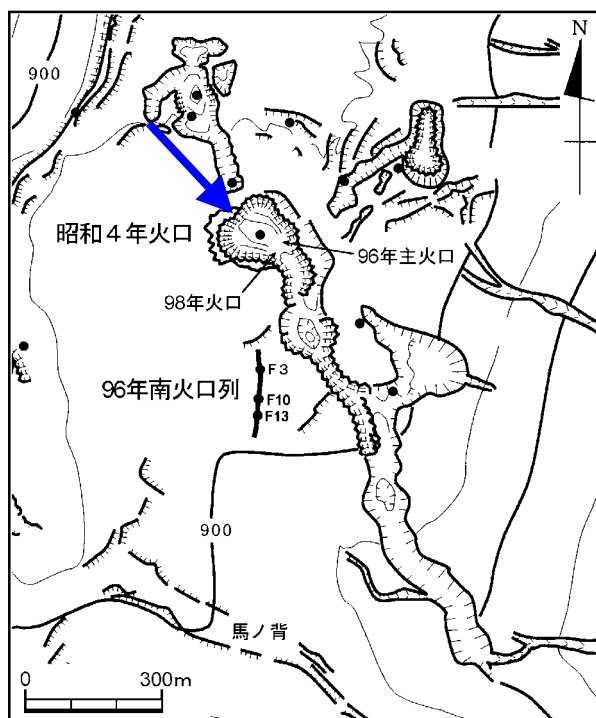
11月2日に北海道開発局の協力を得て上空からの観測を実施しました。

昭和4年火口では2000年噴火のあった南側内壁部分から立ち上がる白色の噴気が認められました。その他、明治火口の西側内壁からもごく弱い白色の噴気が認められましたが、本年10月に行った調査観測結果と比較して、噴気活動に変化は見られませんでした。

赤外熱映像装置*による観測では、昭和4年火口内の温度分布に変化は認められませんでした。



北西側上空(下図→方向)から測定した昭和4年火口の表面温度分布



駒ヶ岳山頂火口周辺

* 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、熱源から離れるほど測定される温度は実際の温度よりも低い値になってしまいます。また、噴煙や霧で測定対象が見えにくい場合には温度測定ができないこともあります。